

講義名	課題演習(ファイナンス)			授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

経営大学院における経営学修士(MBA)レベルの基本的経営財務に関する知識と分析手法の習得ならびに会計的基礎的知識の習得と、分析手法の実践的習得。多種多様に渡る企業の実践的事例研究に基づいた財務戦略構築のための基本的アプローチを身につける。

到達目標

経営大学院における経営学修士(MBA)レベルの基本的経営財務に関する知識と分析手法の習得ならびに会計的基礎的知識の習得と、分析手法の実践的習得。多種多様に渡る企業の実践的事例研究に基づいた財務戦略構築のための基本的アプローチを身につける。

提出課題

企業財務関連の、レポートあるいは小論文課題の提出を課す予定(現実企業のケース分析など)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

講義ないで解説およびフォロー討議を行う。

評価の基準

講義ないで討議における参加度、事前割当におけるレジュメ作成などを例にした、討議への参加度、討議活性化への貢献度など、総合的に判断する。各自に設定してもらったリサーチ項目(課題)に関するレポート類60% 講義課題レポート並びに講義参加度(予習など)40%を基本とする。

履修にあたっての注意・助言他

受講生の個別のニーズや背景知識などを踏まえて、輪談を行うテキストを相談して決定する予定。また各自に自らの研究分析対象とする企業を選定してもらい、その将来戦略、展望を議論することを通じて討議を行う。受け身型の一方的講義でなく、予習などの事前学習、自主学習が求められることを認識のこと。それらの講義外での自主学習ができない学生は、成果が乏しいことを認識しておいてほしい。

教科書

.特に定めない。				
----------	--	--	--	--

参考図書

.必要に応じて適宜示す。				

その他

授業計画

講義開始時相談して、受講者のバックグラウンドと問題意識を参考にして、候補として考える一般的テキスト相当書籍あるいは論文を選択してその必要部分の購読を行い、受講者には、担当を決めてレジュメ作成などの講義予習を原則として輪談形式で行う。並行して企業およびビジネスの現実的事例をいくつか取り上げ、それらに関する個別リサーチを行いながら討議資料を作成してもらおう。(或る事例はできるだけ、ホッ的な事例を相談して取り上げ自由かつ深い分析討議を行うことを目指す)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

世界標準のビジネス・スクール(実務型経営大学院MBA)レベルの財務会計理論の理解と適用力を身につけるレベル到達をめざす。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義内だけにかぎらない、必要に応じた面談、個別講義指導などを実施する。

実務経験の有無及び活用

外資系銀行における勤務経験(一般決済業務、貿易金融、資金為替債券取引)、生保シンクタンクにおける投資運用研究実績など。

備考